

院内採用医薬品集



2015年3月発行 第一版

JAPIC 病院

薬剤科

サンプル

(一財) 日本医薬情報センター

(神経系及び感覚器用医薬品)

11	中枢神経系用薬		
111	全身麻酔剤		
1116	亜酸化窒素製剤	1
114	解熱鎮痛消炎剤		
1149	その他の解熱鎮痛消炎剤	1
117	精神神経用剤		
1172	フェノチアジン系製剤	5
13	感覚器用薬		
131	眼科用剤		
1319	その他の眼科用剤	7

(個々の器官系用医薬品)

21	循環器用薬		
219	その他の循環器用薬		
2190	その他の循環器用剤	9
23	消化器用薬		
232	消化性潰瘍用剤		
2325	H ₂ 遮断剤	11
234	制酸剤		
2344	無機塩製剤	15
239	その他の消化器用薬		
2399	その他の消化器用薬	19
24	ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む）		
244	たん白同化ステロイド剤		
2443	ノルテストステロン系製剤	21
25	泌尿生殖器官及び肛門用薬		
259	その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬		
2590	その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	22
26	外皮用薬		
261	外皮用殺菌消毒剤		
2615	アルコール製剤	24
2616	石鹼類製剤	25

264	鎮痛 鎮痒 収斂 消炎剤		
2649	その他の鎮痛 鎮痒 収斂 消炎剤	25
27	歯科口腔用剤		
271	歯科用局所麻酔剤		
2710	歯科用局所麻酔剤	29
273	歯科用鎮痛鎮静剤		
2730	歯科用鎮痛鎮静剤（根管及び齶窩消毒剤を含む）	31

(代謝性医薬品)

31	ビタミン剤		
313	ビタミンB剤（ビタミンB 1剤を除く）		
3131	ビタミンB 2剤	32
33	血液・体液用薬		
332	止血剤		
3329	その他の止血剤	32
39	その他の代謝性医薬品		
396	糖尿病用剤		
3969	その他の糖尿病用剤	34

(生薬及び漢方処方に基づく医薬品)

51	生薬		
510	生薬		
5100	生薬	38

(治療を主目的としない医薬品)

72	診断用薬（体外診断用薬品を除く）		
729	その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く）		
7290	その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く）	39

1 神経系及び感覚器用医薬品

11 中枢神経系用薬

111 全身麻酔剤

1116 亜酸化窒素製剤

■マルワ亜酸化窒素(和歌山酸素)【外用】
(般)亜酸化窒素

内注外

外用

YJコード

1116700X1045

商品名

マルワ亜酸化窒素

規格単位

1g

会社名

和歌山酸素

一般名

亜酸化窒素

組成性状

規格単位毎の組成性状

効能効果

全身麻酔・鎮痛

用法用量

本剤は、酸素と併用し、酸素の吸気中濃度は必ず 20%以上に保つこと。使用目的、患者の状態に応じ、適宜酸素濃度を増加させること。

慎重投与

- 1.ビタミン B12 欠乏症の患者〔本剤の副作用が強くあらわれるおそれがある〕。1)2)3)
- 2.造血機能障害のある患者〔本剤の副作用が強くあらわれるおそれがある〕。1)2)3)
- 3.耳管閉塞、気胸、腸閉塞、気脳症等、体内に閉鎖腔のある患者〔閉鎖腔内容量および内圧が変化する〕。4)5)6)

重要注意

- 1.ビタミン B12 の不活性化により造血機能障害や神経障害を起こすことがあるので、患者の観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合にはビタミン B12 を投与するなど適切な処置を行うこと。1)2)3)
- 2.麻酔を行う際には原則としてあらかじめ絶食させておくこと。
- 3.麻酔を行う際には原則として麻酔前投薬を行うこと。
- 4.麻酔中は気道に注意して呼吸・循環に対する観察を怠らないこと。
- 5.麻酔の深度は手術、検査に必要な最低の深さにとどめること。

併用注意

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
プロポフォール	麻酔作用が増強されたり、収縮期血圧、拡張期血圧、平均動脈圧及び心拍出量が低下することがあるので、併用する場合には、プロポフォールの投与速度を減速するなど慎重に投与すること。7)	相互に作用（麻酔作用）を増強させる。7)

妊産婦投与

妊婦(3 ヶ月以内)又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔動物実験(ラット)で催奇形作用が報告されている〕8)

114 解熱鎮痛消炎剤

1149 その他の解熱鎮痛消炎剤

■ロキソニン錠60mg(第一三共)【内用】
(般)ロキソプロフェンナトリウム水和物錠

高婦子

内注外

内用

YJコード

1149019F1560

商品名

ロキソニン錠60mg

規格単位

60mg1錠

会社名

第一三共

一般名

ロキソプロフェンナトリウム水和物錠

禁忌

- 1.消化性潰瘍のある患者[プロスタグランジン生合成抑制により、胃の血流量が減少し消化性潰瘍が悪化することがある。](ただし、「慎重投与」の項参照)
- 2.重篤な血液の異常のある患者[血小板機能障害を起こし、悪化するおそれがある。]
- 3.重篤な肝障害のある患者[副作用として肝障害が報告されており、悪化するおそれがある。]
- 4.重篤な腎障害のある患者[急性腎不全、ネフローゼ症候群等の副作用を発現することがある。]
- 5.重篤な心機能不全のある患者[腎のプロスタグランジン生合成抑制により浮腫、循環体液量の増加が起こり、心臓の仕事量が増加するため症状を悪化させるおそれがある。]
- 6.本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者
- 7.アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者[アスピリン喘息発作を誘発することがある。]
- 8.妊娠末期の婦人(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)

組成性状

規格単位毎の組成性状

添加物

低置換度ヒドロキシプロピルセルロース

添加物

三二酸化鉄

添加物

乳糖水和物

添加物

ステアリン酸マグネシウム

識別コード

SANKYO157

効能効果

効能・効果	用法・用量
[1]下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛 関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛	効能・効果[1]・[2]の場合 通常、成人にロキソプロフェンナトリウム(無水物として)1回60mg、1日3回経口投与する。頓用の場合は、1回60～120mgを経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。
[2]手術後、外傷後並びに抜歯後の鎮痛・消炎	効能・効果[1]・[2]の場合 通常、成人にロキソプロフェンナトリウム(無水物として)1回60mg、1日3回経口投与する。頓用の場合は、1回60～120mgを経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。
[3]下記疾患の解熱・鎮痛 急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)	効能・効果[3]の場合 通常、成人にロキソプロフェンナトリウム(無水物として)1回60mgを頓用する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、原則として1日2回までとし、1日最大180mgを限度とする。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。

用法用量

効能・効果	用法・用量
[1]下記疾患並びに症状	効能・効果[1]・[2]の場合

<p>の消炎・鎮痛 関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛</p>	<p>合 通常、成人にロキソプロフェンナトリウム（無水物として）1回60mg、1日3回経口投与する。頓用の場合は、1回60～120mgを経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。</p>
<p>[2]手術後、外傷後並びに抜歯後の鎮痛・消炎</p>	<p>効能・効果[1]・[2]の場合 合 通常、成人にロキソプロフェンナトリウム（無水物として）1回60mg、1日3回経口投与する。頓用の場合は、1回60～120mgを経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。</p>
<p>[3]下記疾患の解熱・鎮痛 急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）</p>	<p>効能・効果[3]の場合 通常、成人にロキソプロフェンナトリウム（無水物として）1回60mgを頓用する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、原則として1日2回までとし、1日最大180mgを限度とする。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。</p>

慎重投与

- 1.消化性潰瘍の既往歴のある患者[潰瘍を再発させることがある。]
- 2.非ステロイド性消炎鎮痛剤の長期投与による消化性潰瘍のある患者で、本剤の長期投与が必要であり、かつミソプロストールによる治療が行われている患者[ミソプロストールは非ステロイド性消炎鎮痛剤により生じた消化性潰瘍を効能・効果としているが、ミソプロストールによる治療に抵抗性を示す消化性潰瘍もあるので、本剤を継続投与する場合には、十分経過を観察し、慎重に投与すること。]
- 3.血液の異常又はその既往歴のある患者[溶血性貧血等の副作用がおこりやすくなる。]

- 4.肝障害又はその既往歴のある患者[肝障害を悪化又は再発させることがある。]
- 5.腎障害又はその既往歴のある患者[浮腫、蛋白尿、血清クレアチニン上昇、高カリウム血症等の副作用がおこることがある。]
- 6.心機能異常のある患者(「禁忌」の項参照)
- 7.過敏症の既往歴のある患者
- 8.気管支喘息の患者[病態を悪化させることがある。]
- 9.潰瘍性大腸炎の患者[病態を悪化させることがある。]
- 10.クローン病の患者[病態を悪化させることがある。]
- 11.高齢者(「高齢者への投与」の項参照)

重要注意

- 1.消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
- 2.慢性疾患(関節リウマチ、変形性関節症)に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。
(1).長期投与する場合には定期的に臨床検査(尿検査、血液検査及び肝機能検査等)を行うこと。また、異常が認められた場合には減量、休薬等の適切な措置を講ずること。
(2).薬物療法以外の療法も考慮すること。
- 3.急性疾患に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。
(1).急性炎症、疼痛及び発熱の程度を考慮し、投与すること。
(2).原則として同一の薬剤の長期投与を避けること。
(3).原因療法があればこれを行い、本剤を漫然と投与しないこと。
- 4.患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。過度の体温下降、虚脱、四肢冷却等があらわれることがあるので、特に高熱を伴う高齢者又は消耗性疾患を合併している患者においては、投与後の患者の状態に十分注意すること。
- 5.感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染による炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。
- 6.他の消炎鎮痛剤との併用は避けることが望ましい。
- 7.高齢者には副作用の発現に特に注意し、必要最小限の使用にとどめるなど慎重に投与すること。

併用注意

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
クマリン系抗凝血剤 ワルファリン	その抗凝血作用を増強するおそれがあるので注	本剤のプロスタグランジン生合成抑制作用によ

	意し、必要があれば減量すること。	り血小板凝集が抑制され血液凝固能が低下し、その薬剤の抗凝血作用に相加されるためと考えられている。		リチウム中毒を起こすことがあるので血中のリチウム濃度に注意し、必要があれば減量すること。	におけるプロスタグランジン生合成抑制作用により、これらの薬剤の腎排泄が減少し血中濃度が上昇するためと考えられている。
スルホニル尿素系血糖降下剤 トルブタミド等	その血糖降下作用を増強するので注意し、必要があれば減量すること。	本剤のヒトでの蛋白結合率は、ロキソプロフェンで97.0%、trans-OH体で92.8%と高く、蛋白結合率の高い薬剤と併用すると血中に活性型の併用薬が増加し、その薬剤の作用が増強されるためと考えられている。	チアジド系利尿薬 ヒドロフルメチアジド、ヒドロクロチアジド等	その利尿・降圧作用を減弱するおそれがある。	本剤の腎におけるプロスタグランジン生合成抑制作用により、水、ナトリウムの排泄を減少させるためと考えられている。
ニューキノロン系抗菌剤 エノキサシン水和物等	その痙攣誘発作用を増強することがある。	ニューキノロン系抗菌剤は、中枢神経系の抑制性神経伝達物質であるGABAの受容体への結合を阻害し、痙攣誘発作用をおこす。本剤の併用によりその阻害作用を増強するためと考えられている。	降圧剤 ACE阻害剤 アンジオテンシンII受容体拮抗剤等	その降圧作用を減弱するおそれがある。	本剤のプロスタグランジンの生合成抑制作用により、これらの薬剤の降圧作用を減弱させる可能性がある。
メトトレキサート	血中メトトレキサート濃度を上昇させ、その作用を増強することがあるので、必要があれば減量すること。	機序は不明であるが、本剤の腎におけるプロスタグランジン生合成抑制作用により、これらの薬剤の腎排泄が減少し血中濃度が上昇するためと考えられている。	降圧剤 ACE阻害剤 アンジオテンシンII受容体拮抗剤等	腎機能を悪化させるおそれがある。	本剤のプロスタグランジンの生合成抑制作用により、腎血流量が低下するためと考えられる。
リチウム製剤 炭酸リチウム	血中リチウム濃度を上昇させ、	機序は不明であるが、本剤の腎			

高齢者投与

高齢者では、副作用があらわれやすいので、少量から開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること(「重要な基本的注意」の項参照)。

妊産婦投与

1. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
2. 妊娠末期の婦人には投与しないこと。[動物実験(ラット)で分娩遅延が報告されている。]
3. 妊娠末期のラットに投与した実験で、胎児の動脈管収縮が報告されている。
4. 授乳中の婦人に投与することを避け、やむをえず投与する場合には授乳を中止させること。[動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。]

小児投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。

117 精神神経用剤

1172 フェノチアジン系製剤

■ニューレプチル錠5mg(高田製薬)【内用】
(般)プロペリシアジン錠

高婦子

内注外

内用

YJコード

1172005F1044

商品名

ニューレプチル錠5mg

規格単位

5mg1錠

会社名

高田製薬

一般名

プロペリシアジン錠

禁忌

- 1.昏睡状態、循環虚脱状態にある患者[これらの状態を悪化させるおそれがある。]
- 2.バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者[中枢神経抑制剤の作用を延長し増強させる。]
- 3.アドレナリンを投与中の患者(「3.相互作用」の項参照)
- 4.フェノチアジン系化合物及びその類似化合物に対し過敏症の患者

原則禁忌

皮質下部の脳障害(脳炎、脳腫瘍、頭部外傷後遺症等)の疑いのある患者[高熱反応があらわれるおそれがあるため、このような場合には、全身を氷で冷やすか、又は解熱剤を投与するなど適切な処置を行うこと。]

組成性状

規格単位毎の組成性状

添加物

乳糖水和物

添加物

トウモロコシデンプン

添加物

ヒドロキシプロピルセルロース

添加物

ステアリン酸マグネシウム

添加物

白糖

添加物

ゼラチン

添加物

アラビアゴム末

添加物

タルク

添加物

沈降炭酸カルシウム

添加物

安息香酸ナトリウム

添加物

低置換度ヒドロキシプロピルセルロース

添加物

カルナウバロウ

添加物

黄色5号

識別コード

TTS-581

識別コード

5NLP

効能効果

統合失調症

用法用量

ニューレプチル錠 5mg:

通常、成人にはプロペリシアジンとして、1日10~60mgを分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

慎重投与

- 1.肝障害又は血液障害のある患者[肝障害又は血液障害を悪化させるおそれがある。]
- 2.褐色細胞腫、動脈硬化症あるいは心疾患の疑いのある患者[血圧の急速な変動がみられることがある。]
- 3.重症喘息、肺気腫、呼吸器感染症等の患者[呼吸抑制があらわれることがある。]

- 4. てんかん等の痙攣性疾患又はこれらの既往歴のある患者
[痙攣閾値を低下させることがある。]
- 5. 幼児、小児(「7.小児等への投与」の項参照)
- 6. 高齢者(「5.高齢者への投与」の項参照)
- 7. 高温環境にある患者[体温調節中枢を抑制するため、環境温度に影響されるおそれがある。]
- 8. 脱水・栄養不良状態等を伴う身体的疲弊のある患者[悪性症候群(Syndrome malin)が起こりやすい。]

重要注意

- 1. 眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。
- 2. 制吐作用を有するため、他の薬剤に基づく中毒、腸閉塞、脳腫瘍等による嘔吐症状を不顕性化することがあるので注意すること。
- 3. 抗精神病薬において、肺塞栓症、静脈血栓症等の血栓塞栓症が報告されているので、不動状態、長期臥床、肥満、脱水状態等の危険因子を有する患者に投与する場合には注意すること。

併用禁忌

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アドレナリン ボスミン	アドレナリンの作用を逆転させ、血圧降下を起こすことがある。	アドレナリンのα作用が遮断され、β作用が優位になることがある。1)

併用注意

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 バルビツール酸誘導体、 麻酔剤等	相互に中枢神経抑制作用を増強することがあるので、減量するなど慎重に投与すること。 なお、バルビツール酸誘導体等の抗痙攣作用は、フェノチアジン系薬剤との併用によっても増強されることはないので、こ	ともに中枢神経抑制作用を有する。

	の場合、抗痙攣剤は減量してはならない。	
アルコール	相互に中枢神経抑制作用を増強することがある。	ともに中枢神経抑制作用を有する。
降圧剤	相互に降圧作用を増強することがあるので、減量するなど慎重に投与すること。	ともに降圧作用を有する。
アトロピン様作用を有する薬剤	相互に抗コリン作用を増強することがあるので、減量するなど慎重に投与すること。	ともに抗コリン作用を有する。
リチウム	心電図変化、重症の錐体外路症状、持続性のジスキネジア、突発性の悪性症候群(Syndrome malin)、非可逆性の脳障害を起こすとの報告がある。 観察を十分に行い、慎重に投与すること。 なお、このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。	機序は不明
ドンペリドン、 メトクロプラミド	内分泌機能調節異常又は錐体外路症状が発現しやすくなることがある。 観察を十分に行い、慎重に投与すること。	ともにドパミン受容体遮断作用を有する。
ドパミン作動薬 レボドパ製剤、	相互に作用を減弱することがあ	本剤はドパミン受容体遮断作用

プロモクリプチンメシル酸塩	るので、投与量を調節するなど慎重に投与すること。	を有する。
---------------	--------------------------	-------

高齢者投与

高齢者では、起立性低血圧、錐体外路症状、脱力感、運動失調、排泄障害等が起こりやすいので、患者の状態を観察しながら、慎重に投与すること。

妊産婦投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、投与しないことが望ましい。[動物実験(マウス)で、胎児死亡、流産、早産等の胎児毒性が報告されている。また、妊娠後期に抗精神病薬が投与されている場合、新生児に哺乳障害、傾眠、呼吸障害、振戦、筋緊張低下、易刺激性等の離脱症状や錐体外路症状があらわれたとの報告がある。]

小児投与

幼児、小児では、錐体外路症状、特にジスキネジアが起こりやすいので、慎重に投与すること。

13 感覚器官用薬

131 眼科用剤

1319 その他の眼科用剤

■タリフロン点眼液0.3%(東和薬品)【外用】
(般)オフロキサシン液
(先)タリビッド点眼液0.3%

【後発品】 婦

内注外

外用

YJコード

1319722Q1074

商品名

タリフロン点眼液0.3%

規格単位

0.3%1mL

会社名

東和薬品

一般名

オフロキサシン液

禁忌

本剤の成分及びキノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者

組成性状

規格単位毎の組成性状

添加物

等張化剤

添加物

塩化 Na

添加物

pH 調整剤

添加物

塩酸

添加物

水酸化 Na

効能効果

<適応菌種>:

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、クレブシエラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、シュドモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、アクネ菌

<適応症>:

眼瞼炎、涙囊炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法

用法用量

通常、1回1滴、1日3回点眼する。

なお、症状により適宜増減する。

用法用量使用上注意

- 1.本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。
- 2.長期間使用しないこと。

妊産婦投与

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

- 2 個々の器官系用医薬品
- 21 循環器官用薬
- 219 その他の循環器官用薬
- 2190 その他の循環器官用剤

■アルプロスタジル注5 μ g「MED」(メディサ新薬)【注射】
(般)アルプロスタジル注射液
(先)パルクス注5 μ g

【後発品】劇 高婦子

内注外

注射

YJコード

2190406A1101

商品名

アルプロスタジル注5 μ g「MED」

規格単位

5 μ g1mL1管

会社名

メディサ新薬 | 旭化成ファーマ

一般名

アルプロスタジル注射液

警告

動脈管依存性先天性心疾患(新生児)に投与する場合には、本剤投与により無呼吸発作が発現することがあるので、呼吸管理設備の整っている施設で投与すること。

禁忌

- 1.重篤な心不全の患者〔心不全の増強があらわれるとの報告がある。〕
- 2.出血(頭蓋内出血、消化管出血、喀血等)している患者〔出血を助長するおそれがある。〕
- 3.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)
- 4.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

組成性状

規格単位毎の組成性状

添加物

精製ダイズ油

添加物

高度精製卵黄リンチン

添加物

オレイン酸

添加物

濃グリセリン

添加物

pH調節剤

効能効果

- 1.慢性動脈閉塞症(バージャー病、閉塞性動脈硬化症)における四肢潰瘍ならびに安静時疼痛の改善
- 2.下記疾患における皮膚潰瘍の改善
進行性全身性硬化症
全身性エリテマトーデス
- 3.糖尿病における皮膚潰瘍の改善
- 4.振動病における末梢血行障害に伴う自覚症状の改善ならびに末梢循環・神経・運動機能障害の回復
- 5.動脈管依存性先天性心疾患における動脈管の開存
- 6.経上腸間膜動脈性門脈造影における造影能の改善

用法用量

- 1.慢性動脈閉塞症(バージャー病、閉塞性動脈硬化症)、進行性全身性硬化症、全身性エリテマトーデス、糖尿病、振動病の場合:
通常、成人1日1回1~2mL(アルプロスタジルとして5~10 μ g)をそのまま又は輸液に混和して緩徐に静注、又は点滴静注する。
なお、症状により適宜増減する。
- 2.動脈管依存性先天性心疾患の場合:
輸液に混和し、開始時アルプロスタジル5ng/kg/minとして持続静注し、その後は症状に応じて適宜増減して有効最小量とする。
- 3.経上腸間膜動脈性門脈造影における造影能の改善の場合:
通常、成人には1回1mL(アルプロスタジルとして5 μ g)を生理食塩液で10mLに希釈し、造影剤注入30秒前に3~5秒間で経カテーテル的に上腸間膜動脈内に投与する。

用法用量使用上注意

- 1.本剤を輸液以外の他の薬剤と混和使用しないこと。ただし

一般名-商品五十音順

【ア】
亜酸化窒素
 (マルワ亜酸化窒素) 1 (外)
アルプロスタジル注射液
 (後アルプロスタジル注5 μ g「MED」) 9 (注)

【イ】
イトプリド塩酸塩錠
 (後イトプリド塩酸塩錠50mg「TCK」) 19 (内)
 (後イトプリド塩酸塩錠50mg「TCK」) 19 (内)

【エ】
エタノール
 (エタノール) 24 (外)

【オ】
オフロキサシン液
 (後タリフロン点眼液0.3%) 7 (外)

【キ】
キョウカツ
 (ツムラの生薬キョウカツ) 38 (内)

【ケ】
ケトプロフェン貼付剤
 (後ケトプロフェンテープ20mg「BMD」) 25 (外)
 (後ケトプロフェンテープ20mg「BMD」) 25 (外)

【コ】
コハク酸ソリフェナシン口腔内崩壊錠
 (ベシケアOD錠5mg) 22 (内)

【サ】
酸化マグネシウム錠
 (後カイマックス錠250mg) 15 (内)
 (後カイマックス錠330mg) 17 (内)

【シ】
診断用アレルギーエキス注射液
 (診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」イカ1:1000) 39 (注)

【ナ】
ナンドロロンデカン酸エステル注射液
 (後デカ・デュラミン筋注25mg) 21 (注)

【ヒ】
ピオグリタゾン塩酸塩錠
 (アクトス錠15) 34 (内)

【フ】

ファモチジン錠
 (ガスター錠10mg) 11 (内)
 (ガスター錠20mg) 12 (内)
 (後ファモチジン錠10「サワイ」) 14 (内)

フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム注射液
 (フラビタン注5mg) 32 (注)

プロベリシアジン錠
 (ニューレプチル錠5mg) 5 (内)

【ヘ】
ベンザルコニウム塩化物液
 (オロナイン外用液10%) 25 (外)

【ホ】
ポリドカノール注射液
 (ポリドカスクレロール0.5%注2mL) 32 (注)

【ヨ】
ヨウ化亜鉛・ヨウ素液
 (ヨードヨード亜鉛カントップ用消毒液「昭和」) 31 (他)

【リ】
リドカイン塩酸塩・アドレナリン酒石酸水素塩注射液
 (後オーラ注菌科用カートリッジ1.8mL) 29 (他)

【ロ】
ロキソプロフェンナトリウム水和物錠
 (ロキソニン錠60mg) 1 (内)

商品五十音順

【ア】

アクトス錠15	34 (内)
マルワ亜酸化窒素	1 (外)
後アルプロスタジル注5 μ g「MED」		
(先)パルクス注5 μ g	9 (注)
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」イカ1:1000	39 (注)

【イ】

後イトプリド塩酸塩錠50mg「TCK」		
(先)ガナトン錠50mg	19 (内)
後イトプリド塩酸塩錠50mg「TCK」		
(先)ガナトン錠50mg	19 (内)

【エ】

エタノール	24 (外)
-------	-------	--------

【オ】

後オーラ注歯科用カートリッジ1.8mL	29 (他)
オロナイン外用液10%	25 (外)

【カ】

後カイマックス錠250mg	15 (内)
後カイマックス錠330mg	17 (内)
ガスター錠10mg	11 (内)
ガスター錠20mg	12 (内)

【キ】

ツムラの生薬キョウカツ	38 (内)
-------------	-------	--------

【ケ】

後ケトプロフェンテープ20mg「BMD」		
(先)モーラステープ20mg	25 (外)
後ケトプロフェンテープ20mg「BMD」		
(先)モーラステープ20mg	25 (外)

【タ】

後タリフロン点眼液0.3%	7 (外)
---------------	-------	-------

(先)タリビッド点眼液0.3%

【テ】

後デカ・デュラミン筋注25mg	21 (注)
-----------------	-------	--------

【ニ】

ニューレプチル錠5mg	5 (内)
-------------	-------	-------

【フ】

後ファモチジン錠10「サワイ」	14 (内)
(先)ガスター錠10mg		
フラビタン注5mg	32 (注)

【ヘ】

ベシケアOD錠5mg	22 (内)
------------	-------	--------

【ホ】

ポリドカスクレロール0.5%注2mL	32 (注)
--------------------	-------	--------

【ヨ】

ヨードヨード亜鉛カントップ用消毒液「昭和」	31 (他)
-----------------------	-------	--------

【ロ】

ロキソニン錠60mg	1 (内)
------------	-------	-------

【別紙】採用薬品薬価一覧 【五十音順】

商品名・規格単位／内注外（一般名）	会社名	単位薬価／改訂日
アクトス錠15 15mg 1錠 内用(ピオグリタゾン塩酸塩錠)	武田薬品工業	73.80 2014/04/01
マルワ亜酸化窒素 1g 外用(亜酸化窒素)	和歌山酸素	4.30 2014/04/01
後アルプロスタジル注5μg「MED」 5μg 1mL 1管 注射(アルプロスタジル注射液)	メディサ新薬	1,353.00 2014/04/01
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」イカ1：1000 2mL 1瓶 注射(診断用アレルギーエキス注射液)	鳥居薬品	4,320.00 2014/04/01
後イトプリド塩酸塩錠50mg「TCK」 50mg 1錠 内用(イトプリド塩酸塩錠)	辰巳化学	11.00 2014/04/01
後イトプリド塩酸塩錠50mg「TCK」 50mg 1錠 内用(イトプリド塩酸塩錠)	辰巳化学	11.00 2014/04/01
エタノール 10mL 外用(エタノール)	山善製薬	1.69 2014/04/01
後オーラ注菌科用カートリッジ1.8mL 1.8mL 1管 その他(リドカイン塩酸塩・アドレナリン酒石酸水素塩注射液)	昭和薬品化工	59.60 2014/04/01
オロナイン外用液10% 10% 10mL 外用(ベンザルコニウム塩化物液)	大塚製薬工場	0.66 2014/04/01
後カイマックス錠250mg 250mg 1錠 内用(酸化マグネシウム錠)	テバ製薬	5.60 2014/04/01
後カイマックス錠330mg 330mg 1錠 内用(酸化マグネシウム錠)	テバ製薬	5.60 2014/04/01
ガスター錠10mg 10mg 1錠 内用(ファモチジン錠)	アステラス製薬	27.00 2014/04/01
ガスター錠20mg 20mg 1錠 内用(ファモチジン錠)	アステラス製薬	46.40 2014/04/01
ツムラの生薬キョウカツ 10g 内用(キョウカツ)	ツムラ	3.22 2014/04/01
後ケトプロフェンテープ20mg「BMD」 7cm×10cm 1枚 外用(ケトプロフェン貼付剤)	バイオメディクス	12.80 2014/06/20
後ケトプロフェンテープ20mg「BMD」 7cm×10cm 1枚 外用(ケトプロフェン貼付剤)	バイオメディクス	12.80 2014/06/20
後タリフロン点眼液0.3% 0.3% 1mL 外用(オフロキサシン液)	東和薬品	48.90 2014/04/01
後デカ・デュラミン筋注25mg 25mg 1管 注射(ナンドロロンデカン酸エステル注射液)	富士製薬工業	420.00 2014/04/01
ニューレプチル錠5mg 5mg 1錠 内用(プロペリシアジン錠)	高田製薬	5.60 2014/04/01
後ファモチジン錠10「サワイ」 10mg 1錠 内用(ファモチジン錠)	沢井製薬	10.60 2014/04/01
フラビタン注5mg 5mg 1管 注射(フラビンアデニンジスクレオチドナトリウム注射液)	トーアエイヨー	59.00 2014/04/01
ベシケアOD錠5mg 5mg 1錠	アステラス製薬	194.80

(別紙) 同一成分院外薬一覧 【五十音順】

一般名	院内採用薬 採用品同種同効薬 (類似薬) 院外薬	薬価
亜酸化窒素	マルワ亜酸化窒素 1 g (和歌山酸素)	4.30
	<1116 亜酸化窒素製剤> 採用品同種同効薬 (類似薬)	
	<院外薬>	
	液化亜酸化窒素 1 g (日産化学工業)	4.30
	液化亜酸化窒素 1 g (日本エア・リキード)	4.30
	アネスタ 1 g (星医療酸器)	4.30
	液化亜酸化窒素 (NFG) 1 g (日本ファインガス)	5.00
	小池笑気 1 g (小池メディカル)	4.30
	笑気ガス (住友精化) 1 g (住友精化)	3.90
笑気ガス 1 g (平成ガス)	3.90	
笑気ガス (シヨウワ) 1 g (昭和電工)	4.30	
アルプロスタジル注射液	後アルプロスタジル注 5 μg 「MED」 5 μg 1 mL 1 管 (メディサ新薬)	1353.00
	<2190 その他の循環器官用剤> 採用品同種同効薬 (類似薬)	
	<院外薬>	
	後アリプロスト注 5 μg 5 μg 1 mL 1 管 (富士製薬工業)	1614.00
	後アルプロスタジル注 5 μg 「サワイ」 5 μg 1 mL 1 管 (沢井製薬)	1353.00
	パルクス注 5 μg 5 μg 1 mL 1 管 (大正製薬)	2988.00
後プリンク注 5 μg 5 μg 1 mL 1 管 (テバ製薬)	1614.00	
リプル注 5 μg 5 μg 1 mL 1 管 (田辺三菱製薬)	2877.00	
イトプリド塩酸塩錠	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「TCK」 50 mg 1 錠 (辰巳化学)	11.00
	<2399 その他の消化器官用薬> 採用品同種同効薬 (類似薬)	
	<院外薬>	
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「JG」 50 mg 1 錠 (日本ジェネリック)	11.00
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「NP」 50 mg 1 錠 (ニプロ)	11.00
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「NS」 50 mg 1 錠 (日新製薬)	11.00
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「PH」 50 mg 1 錠 (キョーリンリメディオ)	11.00
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「TYK」 50 mg 1 錠 (大正薬品工業)	11.00
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「YD」 50 mg 1 錠 (陽進堂)	11.00
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「サワイ」 50 mg 1 錠 (沢井製薬)	11.00
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「タイヨー」 50 mg 1 錠 (テバ製薬)	11.00
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「タナベ」 50 mg 1 錠 (田辺三菱製薬)	11.00
	後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「トーフ」 50 mg 1 錠 (東和薬品)	11.00
後イトプリド塩酸塩錠 50 mg 「日医工」 50 mg 1 錠 (日医工)	11.00	
ガナトン錠 50 mg 50 mg 1 錠 (アボットジャパン)	18.10	
エタノール	エタノール 10 mL (山善製薬)	1.69
	<2615 アルコール製剤> 採用品同種同効薬 (類似薬)	
	<院外薬>	
	エタノール (ミツマル) 10 mL (サンケミファ)	1.69
	エタノール 10 mL (司生堂製薬)	1.69
	エタノール 10 mL (大和薬品工業)	1.69
	エタノール 10 mL (東海製薬)	1.69
	エタノール 「NP」 10 mL (ニプロ)	1.69
	エタノール 「アトル」 10 mL (アトルファーマ)	1.69
	エタノール 「アマカス」 10 mL (甘糟化学産業)	1.69

(別紙) 同一成分異含有量採用薬一覧

一般名(成分名)	商品名・規格単位(会社名)
酸化マグネシウム錠	後カイマックス錠250mg 250mg 1錠 (テバ製薬)
	後カイマックス錠330mg 330mg 1錠 (テバ製薬)
ファモチジン錠	ガスター錠10mg 10mg 1錠 (アステラス製薬)
	ガスター錠20mg 20mg 1錠 (アステラス製薬)

(別紙) 妊産婦投与時に注意が必要な採用薬一覧 【五十音順】

商品名 規格単位 (一般名)	妊産婦投与に関する記載
アクトス錠 15 15mg 1錠 (ピオグリタゾン塩酸塩錠)	1.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、ラット器官形成期投与試験では、40mg/kg 以上の群で胚・胎児死亡率の高値、出生児の生存率の低値が、ウサギ器官形成期投与試験では、160mg/kg 群で親動物の死亡又は流産がそれぞれ1例、胚・胎児死亡率の高値がみられている。] 2.授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合は授乳を中止させること。[ラットで乳汁中への移行が報告されている。1)]
マルワ亜酸化窒素 1g (亜酸化窒素)	妊婦(3ヶ月以内)又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[動物実験(ラット)で催奇形作用が報告されている] 8)
後アルプロスタジル注 5µg 「MED」 5µg 1mL 1管 (アルプロスタジル注射液)	妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。[動物実験(ラット、in vitro)で子宮収縮作用が報告されており、またヒトにおける妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」イカ 1:1000 2mL 1瓶 (診断用アレルギーエキス注射液)	ヒスタミンは子宮筋収縮作用を有することが知られているので、妊娠中はヒスタミン遊離が考えられる広範なテストは避けること。
後イトプリド塩酸塩錠 50mg 「TCK」 50mg 1錠 (イトプリド塩酸塩錠)	1.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。] 2.授乳中の婦人への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で乳汁中に移行することが報告されている。]
後イトプリド塩酸塩錠 50mg 「TCK」 50mg 1錠 (イトプリド塩酸塩錠)	1.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。] 2.授乳中の婦人への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で乳汁中に移行することが報告されている。]
後オーラ注 歯科用カートリッジ 1.8mL 1.8mL 1管 (リドカイン塩酸塩・アドレナリン酒石酸水素塩注射液)	妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない]
ガスター錠 10mg 10mg 1錠 (ファモチジン錠)	1.妊婦等:妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。] 2.授乳婦:授乳婦に投与するときは授乳させないよう注意すること。[母乳中に移行することが報告されている。]
ガスター錠 20mg 20mg 1錠 (ファモチジン錠)	1.妊婦等:妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。] 2.授乳婦:授乳婦に投与するときは授乳させないよう注意すること。[母乳中に移行することが報告されている。]
後ケトプロフェンテープ 20mg 「BMD」 7cm×10cm 1枚	1.ケトプロフェンの外皮用剤を妊娠後期の女性に使用した場合、胎児動脈管収縮が起きることがあるので、妊娠後期の女性には本剤を使用しないこと。

■院内採用薬一覧表 (薬効分類-内注外-五十音)

2014/11/13 11:37:02

商品名・規格単位

製造元

単位薬価 薬価改訂日

1 神経系及び感覚器用医薬品

11 中枢神経系用薬

111 全身麻酔剤

1116 亜酸化窒素製剤

外用 ■マルワ亜酸化窒素 1g

和歌山酸素

4.30

2014/04/01

114 解熱鎮痛消炎剤

1149 その他の解熱鎮痛消炎剤

内用 ■ロキソニン錠60mg 60mg 1錠

第一三共

17.50

2014/04/01

117 精神神経用剤

1172 フェノチアジン系製剤

内用 ■ニューレプチル錠5mg 5mg 1錠

高田製薬

5.60

2014/04/01

13 感覚器用薬

131 眼科用剤

1319 その他の眼科用剤

外用 ■タリフロン点眼液0.3% 0.3% 1mL 【後発品】

東和薬品

48.90

2014/04/01

2 個々の器官系用医薬品

21 循環器用薬

219 その他の循環器用薬

2190 その他の循環器用剤

注射 ■アルプロスタジル注5μg「MED」 5μg 1mL 1管 【後発品】

メデイサ新薬

1,353.00

2014/04/01

23 消化器用薬

232 消化性潰瘍用剤

2325 H₂遮断剤

内用 ■ガスター錠10mg 10mg 1錠

アステラス製薬

27.00

2014/04/01